

令和2年度 6年コース5学年 4月19日(日)までの学習課題

教科	科目	Sクラス	Hクラス
国語	古典	今週は特になし。	
	現代文	「自明の罨」を読んで学習課題集をやる。	
	国語演習【文系】	今週は特になし。	LT現代文p.4～p.5 ※わからない漢字や語彙は調べて空欄をうめること。
地歴公民	世界史B	教科書p10～21の11行目までを読んで参照し、チェックリストp6～p9までを解く。	
	日本史	新日本史研究ノート標準編P6～7(教科書P8～15参照)	
	地理B	大学入学試験地理対応パワーアップ整理と演習p1(教科書p6-10、資料集p4-9参照)	
	地理A	新地理A教科書p4-7を読んで理解し、太文字に赤線を引く。わからない単語は調べる。	
	現代社会	政治・経済ノートP.2～3(教科書P52～53、P56～57参考)	
数学	理系	○「数学Ⅱ」教科書P93～P99の内容を、Classiの動画を見ながら学習 ○できる限り、P100～P102の問題にも挑戦できるとなおい。	○「数学Ⅱ」教科書P92～P99の内容を、Classiの動画を見ながら学習(P93はやらなくてもよい) ※つながりにくい場合は、「軌跡と領域」を検索すると、必要な動画が見られます。
	文系	※つながりにくい場合は、「軌跡と領域」を検索すると、必要な動画が見られます。	
理科	物理	フォローアップドリル物理 力と運動・熱と気体 p. 2～p. 5	
	化学(理系)	<ul style="list-style-type: none"> ● 宿題範囲 : 昨年度の化学基礎の問題集(ニューステップアップ化学基礎)のうち、理系でも大学入試頻出問題であるP.52の79、P.53の82、P.63の102の3問を解く。 ● 提出方法 : 新品でなくてもよいので演習ノートをつくり(授業ノートやノートをちぎった紙は認めないが、今後使わない途中まで使ったノートやバインダーで管理するならルーズリーフは認める)、それに解いたものを提出。 ※ 今後、定期試験ごとの提出物は、この演習ノートとなり、それ以外は認めないので、この機会に必ず演習ノートを用意すること。 ● 演習ノートの使い方(つくり方) : 計算が必要な問題などは、答えを導き出す過程も記入すること。その後、解答編の冊子の解説を見ながら答え合わせをする。または、Classiに解説動画をアップロードする予定なので、それを見ながら答え合わせをする。 ※ 今後、Classiを利用して問題演習や解説を行う予定なので、この期間でClassiに慣れておくようにしよう。 	
	生物	リードα 生物基礎+生物のp.2～p.12を読み、p.19～p.27の問題を解く。 ただし、解答はノート(ルーズリーフノート可)に書くこと。	
	理科演習(化学)	リードLightノート化学基礎 p. 2～p. 11	
	理科演習(生物)	リードα 生物基礎完成ノート p. 2～p. 5	
英語	コミュ英Ⅱ	Element II ・教科書P22～23のNew wordsとPhrasesの意味調べ ・本文をノートの左ページに書き写し、右ページに和訳をし、間違いは赤で直す ・ワークブックP2～7(答え合わせもすること) * classiにノートの書き方を載せておくので必ず確認すること	Element II ・教科書P22～23のNew wordsとPhrasesの意味調べ ・本文をノートの左ページに書き写し、右ページに和訳をし、間違いは赤で直す ・ワークブックP2～7(答え合わせもすること) * 最初の授業で伝えた書き方でノート作りをする
	英表Ⅱ	be II ・教科書P11とP15のExercises問題をノートに解く。書き方は、1行空きで、英文は全文を書くこと。日本語訳は書かなくてよい。 ・オレンジワークP5～P9(答え合わせもすること) ・Next Stage「第1章 時制」の問題を英語表現のノートに解く。英文は全文で書くこと。選択肢・和訳は書かなくてよい。 * 総合英語beの参考書を使用し取り組むこと	be II ・教科書P11とP15のExercises問題をノートに解く。書き方は、1行空きで、英文は全文を書くこと。日本語訳は書かなくてよい。 ・オレンジワークP5～P9(答え合わせもすること) ・Next Stage「第1章 時制」の問題を英語表現のノートに解く。英文は全文で書くこと。選択肢・和訳は書かなくてよい。 * 総合英語beの参考書を使用し取り組むこと

★課題への取り組み方★

- ・計画的に取り組ましましょう。
- ・自分の力で問題を解きましょう。
- ・わからない問題がある場合は、教科書・参考書・辞書等の教材を使って調べましょう。
- ・弱点を明確にするため、答え合わせを丁寧にしましょう。
- ・間違えた場合、すぐに答えを写すのではなく、再度その問題を解きなおして理解を深めましょう。